

FACT BOOK

2023年6月更新

サッポロホールディングス株式会社

1	サッポログループの概要	
➤	サッポログループ全体概要	4
➤	中期経営計画2023～26	6
➤	主要関係会社	8
➤	主な商品	9
➤	沿革	10
2	各国市場概要とサッポログループの状況	
➤	国内酒類事業の状況	12
➤	海外酒類事業の状況	16
➤	外食事業の状況	20
➤	国内食品飲料事業の状況	23
➤	海外飲料事業の状況	26
➤	不動産事業の状況	27
3	サッポログループ財務データ	
➤	財務データ（損益動向、財務状態、セグメント情報他）	31
➤	会社情報	37

1 サッポログループの概要

➤ サッポログループ全体概要	4
➤ 中期経営計画2023～26	6
➤ 主要関係会社	8
➤ 主な商品	9
➤ 沿革	10

▶ 経営理念

潤いを創造し 豊かさに貢献する

▶ 経営の基本方針

サッポログループは、ステークホルダーの信頼を高める誠実な企業活動を実践し、持続的な企業価値の向上を目指します

サッポログループ

全体概要



サッポロホールディングス株式会社
代表取締役社長 尾賀 真城



サッポログループは1876年の北海道開拓使麦酒醸造所設立によるビール製造開始以来、原料にこだわったモノづくりへの真摯な取り組みを続け、お客様にご満足いただける商品・サービスの提供に努めています。

ビール事業をはじめとして、総合酒類、食品・飲料、外食、不動産へとすそ野を広げ、ご提供する商品・サービスを通じてお客様や地域とのつながりを深化させながら、「個性かがやくブランド」を進化させてきました。

国内外でこの「ブランド」をさらに磨き、「個性かがやくブランドカンパニー」としての確かな成長を目指すとともに、当社ならではの独自のブランド体験をお客様に提供し、人と社会のWell-beingに貢献し続けていきます。

酒類、食品飲料、不動産の3つの事業を展開。人々の暮らしや社会に潤いをもたらし、その豊かさに貢献することを目指しています。

◆ 酒類事業

国内では、黒ラベル・エビスなどビールを中心に酒類事業を展開。

海外では、北米を中心に、SAPPORO PREMIUM BEERの販売を推進。

外食では、「銀座ライオン」「エビスバー」などで、最高品質の生ビールと、居心地の良い空間を提供。

◆ 食品飲料事業

国内では、レモンを中心にスープ、飲料、など各種商品の製造・販売を実施。

海外では、茶系飲料シェアNo.1のシンガポールを拠点として、世界約60カ国以上へPOKKAブランドを展開。

◆ 不動産事業

サッポログループとゆかりの深い恵比寿・札幌・銀座の3拠点を中心に不動産の管理・運営、開発事業などを展開。物件価値向上とまちづくりを推進。

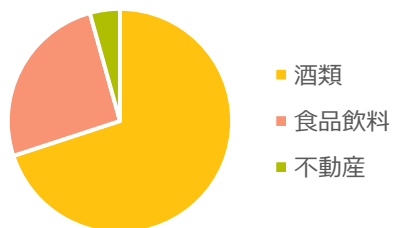
エクイティ投資、VA流動化事業など資産回転型ビジネスも展開。

サッポログループ

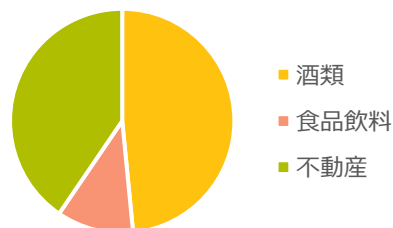
全体概要

(億円)	2022実績				
	連結	酒類	食品飲料	不動産	その他
売上収益	4,784	3,346	1,229	207	1
事業利益	93	77	18	65	-66
事業利益率	1.9%	2.3%	1.4%	31.2%	-
EBITDA	299	189	44	115	-49

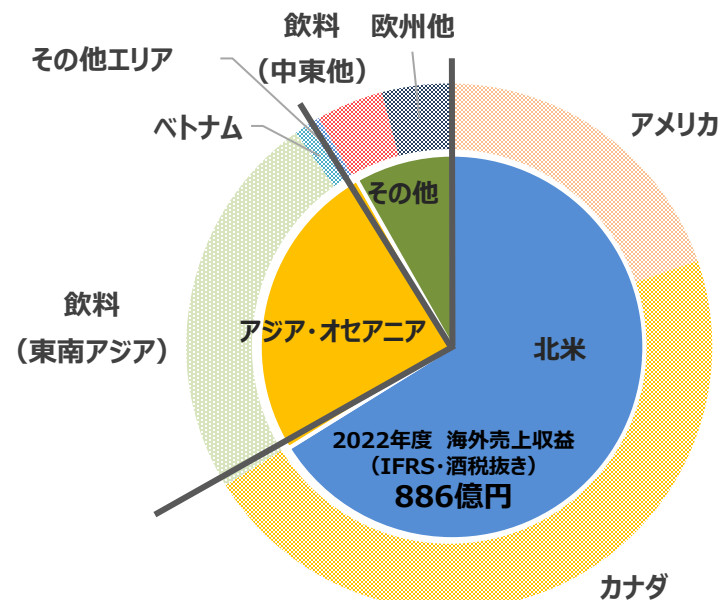
売上収益構成比



事業利益構成比



★ 海外売上収益（酒税抜き）エリア別構成比



【基本方針】Beyond150 ～事業構造を転換し新たな成長へ～



財務目標

- ・ROE：8%
- ・EBITDA年平均成長率：10%程度
- ・海外売上高年平均成長率：10%程度

主な非財務目標

- ・CO2排出削減
スコープ1、2 SBT※1認証レベル（4.2%/年削減）
スコープ3 SBT認証レベル（2.5%/年削減）
SBTイニシアチブへコミットメント提出、受理済
- ・女性役員比率、女性管理職比率：12%以上※2

※1 SBT パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のこと
※2 22年実績：女性役員8.3%、女性管理職5.4%

サッポログループ

中期経営計画
2023～26

2023年～2026年 2026年
創業150周年

事業戦略

各事業の位置づけと課題を明確にし、課題に対してスピードを上げて取り組みます。

構造改革

事業ポートフォリオの整理

- ・「再編」「整理」と位置付けた事業は2024年までに抜本的に見直し

国内酒類・不動産の収益改善を行うとともに、海外酒類・海外飲料を成長ドライバーとして、さらなる飛躍を目指します。

強化・成長

海外事業、コア事業における成長実現

- ・北米酒類、海外飲料の展開を加速
- ・国内ビールへの集中、RTDブランドの育成
- ・不動産事業の収益構造多様化

財務戦略

持続的成長と資本効率重視の財務戦略

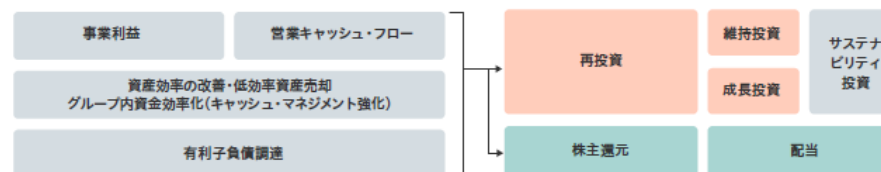
成長を伴ったキャッシュ創出力の向上と資本コストを上回るリターンを実現し、企業価値向上を確かなものにします。

＜キャッシュ創出力の最大化＞

- ・各事業のキャッシュフロー創出力強化
- ・適切なバランスシート管理

＜配分方針＞

- ・資本の有効活用
成長が期待される海外への投資
収益基盤強化に向けた国内への投資
- ・株主還元方針
安定配当重視、水準の向上

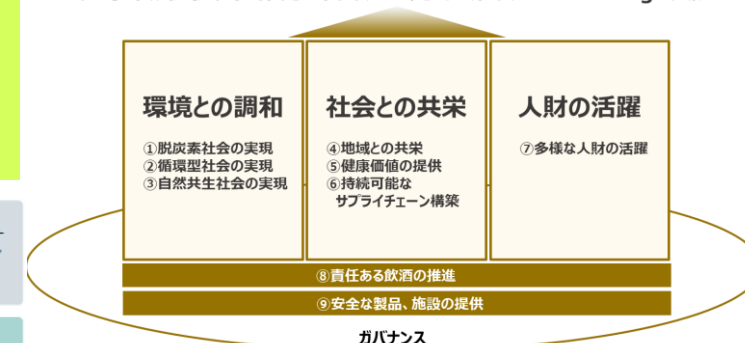


＜資金調達＞ 金融負債残高を現状の格付けを維持できる水準にコントロール

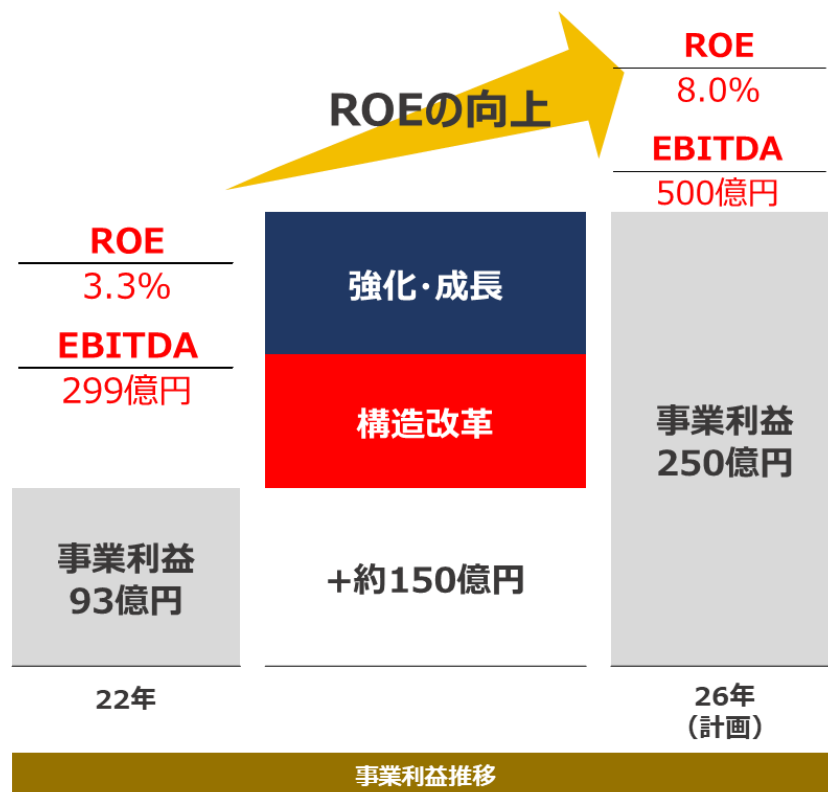
サステナビリティ

「脱炭素社会の実現」「地域との共栄」「多様な人財の活躍」を最注力課題に位置づけました。進捗をモニタリングしながら取り組みを推進します。

全ての事業が提供する時間と空間で、人々と地域社会のWell-beingに貢献



構造改革を断行し、成長を加速させることで、収益力強化を図り、ROE 8%を実現する。



国内酒類

強化・成長

事業利益率 3.5% (22年実績) ⇒ 5.7% (26年目標)

[\(P.14~15\)](#)

酒税一本化を見据え、ビール・RTDを強化

海外酒類

強化・成長

事業利益率 ▲0.4% (22年実績) ⇒ 6.2% (26年目標)

[\(P.18\)](#)

成長ドライバーとなる米国において、Stone社とのシナジー早期創出、SAPPORO PREMIUM BEER (SPB) を中心とした更なる成長を目指す

外食

構造改革

事業利益率 ▲3.3% (22年実績) ⇒ 5.0% (26年目標)

[\(P.21\)](#)投資効率の高い店舗の出店と不採算店舗の閉鎖
ブランド発信拠点としての国内酒類事業との連携強化

国内食品飲料

構造改革

事業利益率 0.9% (22年実績) ⇒ 3.8% (26年目標)

[\(P.23\)](#)構造改革の実施による収益基盤の再構築
レモン事業へのリソース集中投下

海外飲料

強化・成長

事業利益率 3.6% (22年実績) ⇒ 5.0% (26年目標)

[\(P.26\)](#)

シンガポールを起点にマレーシア、中東など成長余地のある国での売上拡大

不動産

強化・成長

ROA 4.9% (22年実績) ⇒ 5.7% (26年目標)
(EBITDAベース)[\(P.28\)](#)コア物件の価値向上とまちづくり
資産回転型ビジネスモデル構築 (収益構造多様化・資産効率向上)

サッポログループ

中期経営計画
2023~26

サッポログループ
事業別
主要関係会社

2022年12月末時点

日本

北米

東南アジア

サッポロホールディングス株式会社	酒類	国内酒類	サッポロビール(株)	
		海外酒類	カナダ	SLEEMAN BREWERIES LTD.
			アメリカ	STONE BREWING CO., LLC
				SAPPORO U.S.A., INC.
		ベトナム	SAPPORO VIETNAM LTD.	
	食品飲料	外食	(株)サッポロライオン	
		国内食品飲料	ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)	
			シンガポール	POKKA PTE.LTD.
			マレーシア	POKKA (MALAYSIA) SDN.BHD.
		不動産	サッポロ不動産開発 (株)	

© 2023 SAPPORO BEER CO., LTD.

サッポログループ主な商品

酒類事業

サッポロビール（株）



国内酒類

SLEEMAN BREWERIES LTD.



SAPPORO U.S.A., INC.



STONE BREWING CO., LLC



海外酒類

SAPPORO VIETNAM LTD.



(株) サッポロライオン



外食

食品飲料事業

ポッカサッポロフード&ビバレッジ（株）



国内食品飲料

POKKA PTE.LTD.



海外飲料

サッポロ不動産開発（株）



不動産

不動産事業

年	事業	主な出来事
1876	酒類	【日本】北海道・札幌にて「開拓使麦酒醸造所」として創業（サッポロビールのルーツ）
1877	酒類	【日本】冷製「札幌ビール」発売
1887	酒類	【日本】東京・銀座にて「日本麦酒醸造会社」創業（アビスビールのルーツ）
1890	酒類	【日本】「恵比寿ビール」発売
1899	酒類	【日本】日本初のビヤホール「恵比寿ビール BEER HALL」東京・銀座に誕生
1957	食品飲料	【日本】「ポッカレモン」誕生
1964	酒類	【アメリカ】米国向けにビールの輸出を開始
1977	酒類	【日本】「サッポロびん生」発売（後の「サッポロ生ビール黒ラベル」）
1977	食品飲料	【シンガポール】シンガポール進出
1984	酒類	【アメリカ】サッポロUSA社設立
1993	不動産	【日本】札幌工場跡地に＜サッポロファクトリー＞開業
1994	不動産	【日本】恵比寿工場跡地に＜恵比寿ガーデンプレイス＞開業
2003	その他	純粋持株会社体制へ（サッポロホールディングス株式会社）
2006	酒類	【カナダ】SLEEMAN社子会社化
2011	酒類	【ベトナム】ビール工場完成
2011	食品飲料	【日本】ポッカサッポロフード&ビバレッジ事業開始
2014	食品飲料	【マレーシア】ポッカマレーシア工場竣工
2016	不動産	【日本】GINZA PLACE開業
2019	その他	「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同表明
2019	その他	サッポログループ サステナビリティ方針策定
2020	その他	監査等委員会設置会社に移行
2021	その他	「責任ある飲酒の推進」としてグローバルスローガン「Promote Responsible Drinking」策定
2022	酒類	【アメリカ】Stone社子会社化 ※8月末～

2

各国市場概要とサッポログループの状況

➤ 国内酒類事業の状況	12
➤ 海外酒類事業の状況	16
➤ 外食事業の状況	20
➤ 国内食品飲料事業の状況	23
➤ 海外飲料事業の状況	26
➤ 不動産事業の状況	27

サッポロビール株式会社



1876年の創業以来モノ造りにこだわり、その中で「サッポロ生ビール黒ラベル」「エビスビール」という2つのブランドをお客様と共に育ててまいりました。一方、日本で唯一のビール博物館である「サッポロビール博物館」、恵比寿の地名の由来である「エビスビール」の歴史を展示する「エビスビール記念館」（23年末にYEBISU BREWERYにリニューアル予定）、ならびに日本のビール文化を健全に発展させる目的で2012年から開始した「日本ビール検定（通称びあけん）」などを通じ、世界に誇る日本のビール文化の醸成にも貢献しています。全ての商品やサービスにより磨きをかけ、お酒と人との未来を創る酒類ブランドカンパニーを目指していきます。

★基本情報

資本金 100億円
本社 東京都
市場参入 1876年9月 開拓使麦酒醸造所設立
1949年9月 日本麦酒株式会社発足（1964年にサッポロビール株式会社と社名変更）
2003年7月 サッポログループの純粋持株会社制移行により、
酒類事業を担う新・サッポロビール(株)を設立
事業内容 ビール・発泡酒・新ジャンル・RTD・ワイン・焼酎などの製造販売、洋酒の販売、他

★生産拠点・見学施設

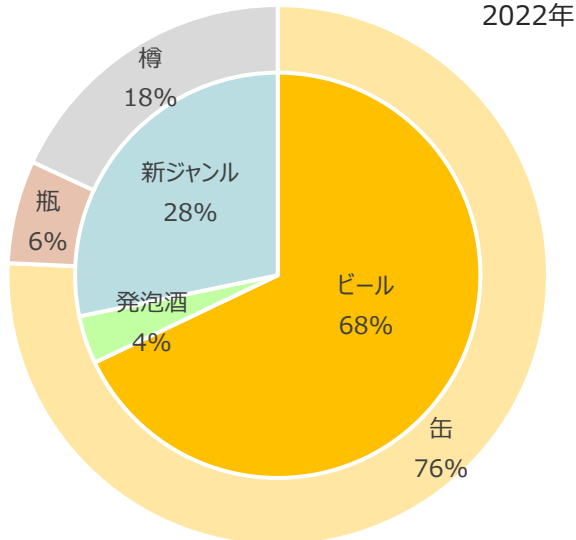
ビール工場		見学施設	
北海道工場	北海道恵庭市	サッポロビール博物館	北海道札幌市
仙台工場 ※1	宮城県名取市	エビスビール記念館 ※3	東京都渋谷区
千葉工場	千葉県船橋市	ワイナリー	
静岡工場 ※2	静岡県焼津市	グランボレー勝沼ワイナリー	山梨県甲府市
那須工場	栃木県那須郡	岡山ワイナリー	岡山県赤磐市
九州日田工場	大分県日田市		

※1 23年10月頃よりRTD工場へ
※2 RTD製造含む
※3 リニューアル工事のため休館中
（2023年末よりYEBISU BREWERY TOKYOとして再開予定）

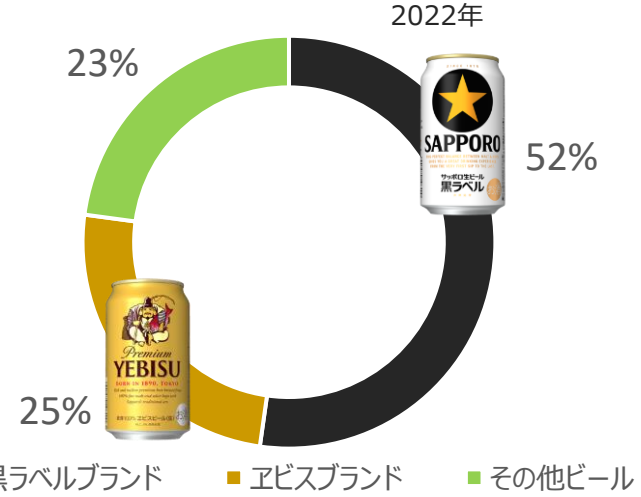
★サッポロビール ビール類 売上数量前年比

【ビール類】前期比**103%**（総需要約**102%**）
【ビール】前期比**110%**（総需要約**114%**）
「黒ラベル」：ブランド計 前期比**112%**「エビス」：ブランド計 前期比97%
【発泡酒】前期比**91%**（総需要約**96%**）
【新ジャンル】前年比**92%**（総需要**93%**）「GOLD STAR」：ブランド計 前期比**105%**

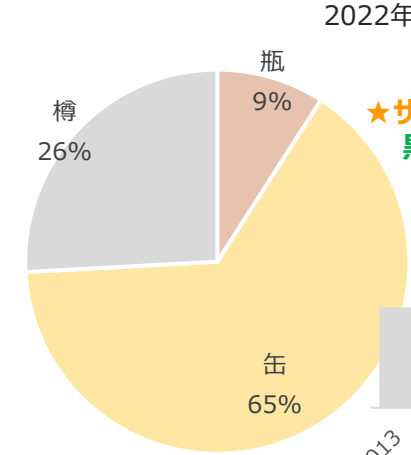
★サッポロビール
ビール類 販売数量ジャンル別・容器別構成比



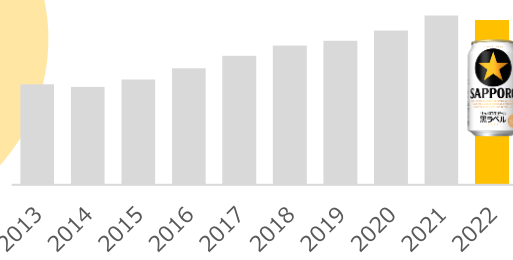
★サッポロビール
ビール 販売数量ブランド別構成比



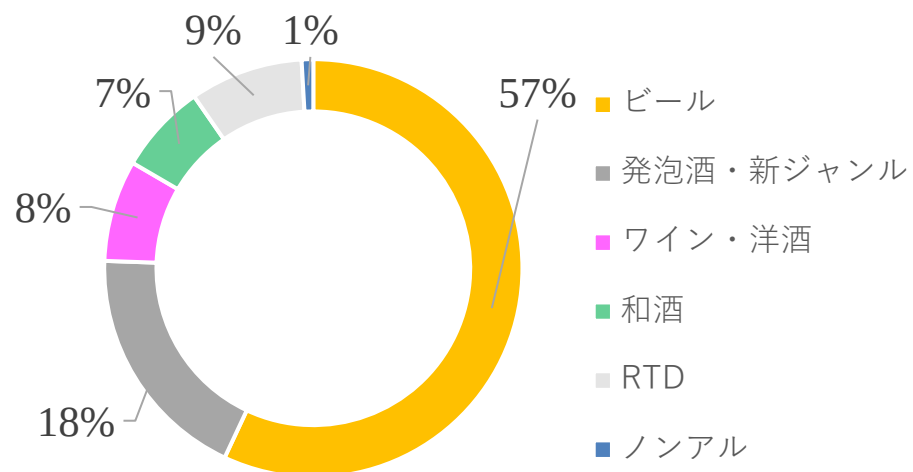
★サッポロビール
ビール 販売数量容器別構成比



★サッポロビール
黒ラベル缶販売数量推移

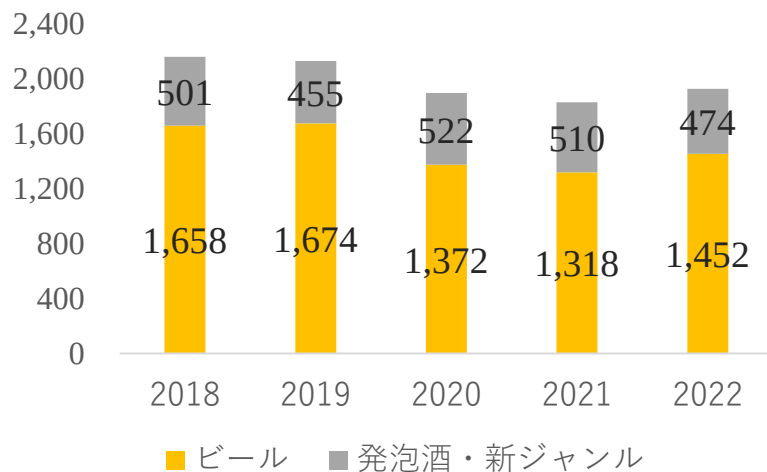


★サッポロビール カテゴリ別 売上金額構成比 2022年



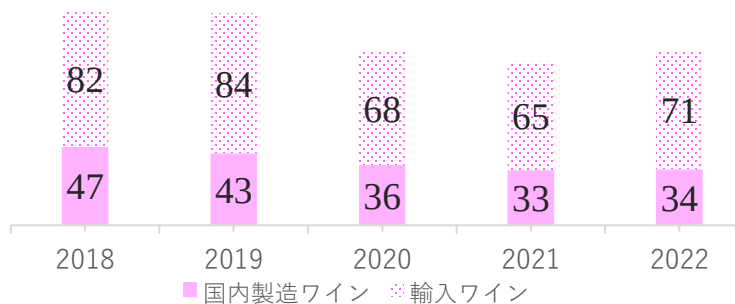
★サッポロビール ビール類カテゴリ別 売上金額推移

※酒税込 単位：億円

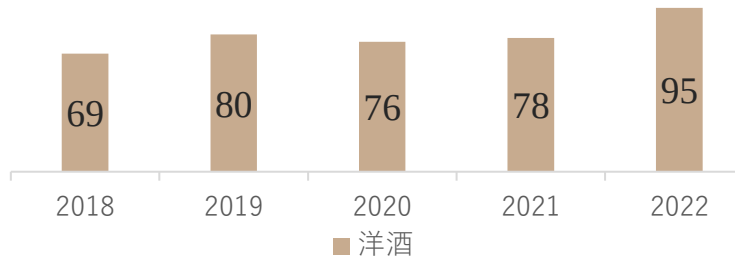


★サッポロビール 商品カテゴリ別売上金額 単位：億円

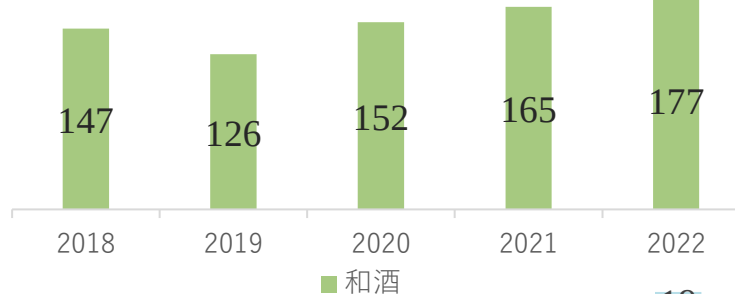
ワイン



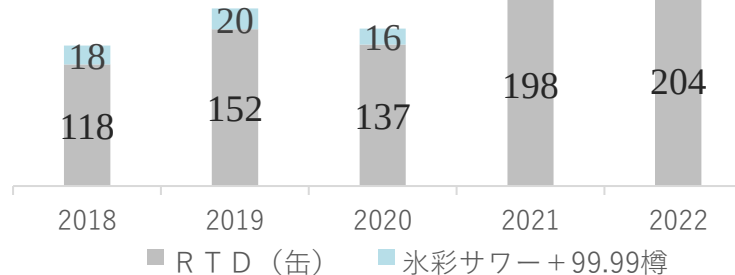
洋酒



和酒



RTD



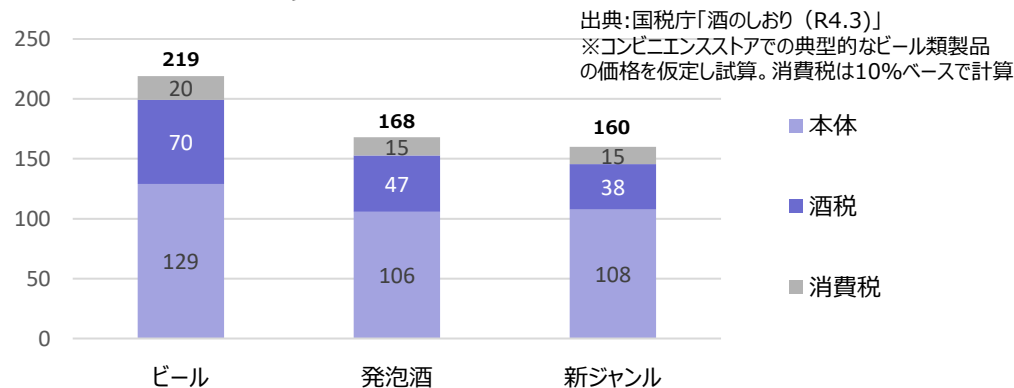
酒税一本化を見据え、ビール・RTDを強化

強化・成長



酒税改正について

★ビール類350ml缶当たりの酒税比較（円）

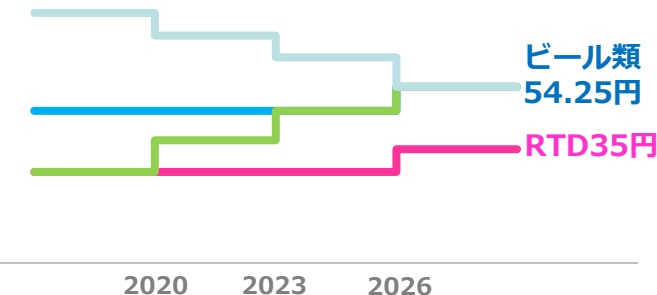


★350ml当たりの酒税額の推移

ビール77円

発泡酒
46.99円

新ジャンル
28円
RTD28円



国内酒類事業

日本

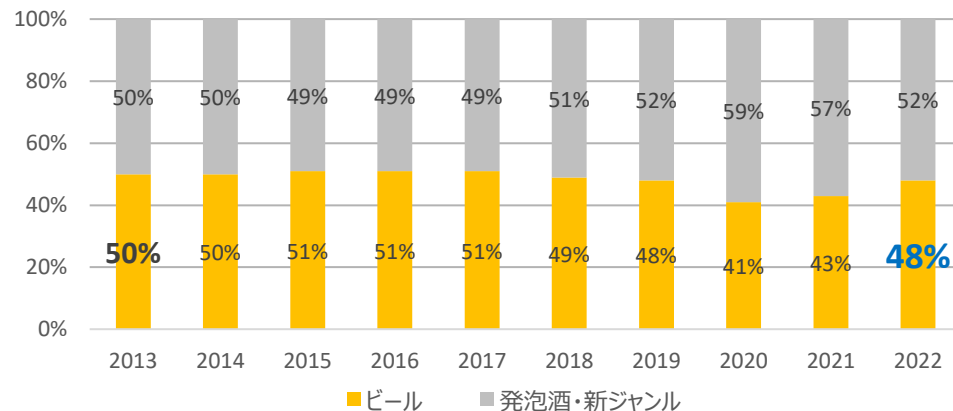
需要動向および当社の状況について（ビール類）

現状はビール＞発泡酒＞新ジャンルと酒税額に違いがあることにより、店頭価格は酒税負担額の高いビール＞発泡酒＞新ジャンルの順となっている。

段階的な酒税改正が実施され、2026年にビール類の酒税一本化が図られるため、発泡酒・新ジャンルからビール・RTDへの需要のシフトが見込まれる。

★日本国内 ビール類市場 カテゴリ別構成比推移（ビール5社課税数量ベース）

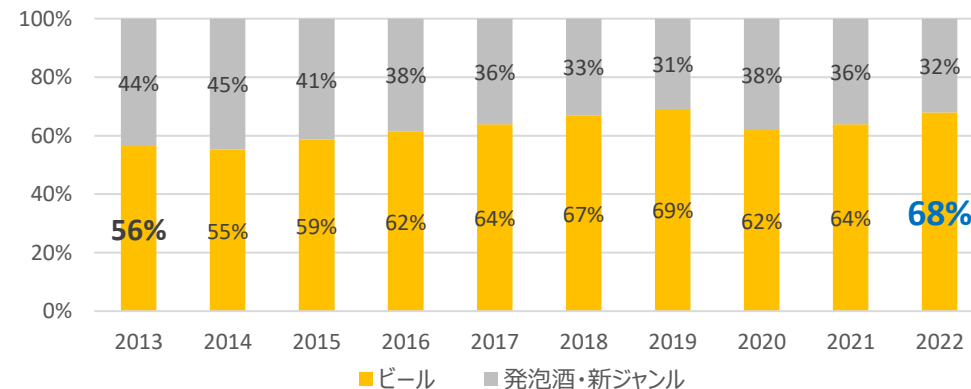
※「ビール酒造組合」が課税数量発表を2018年をもって終了したため、2019年以降当社の推計



★サッポロビール カテゴリ別構成比推移（当社課税数量ベース）

ビール強化を継続して行ってきたため、着実にビールシフトを進められている。

市場と比較しても当社のビール構成比は高い



酒税一本化を見据え、ビール・RTDを強化

強化・成長

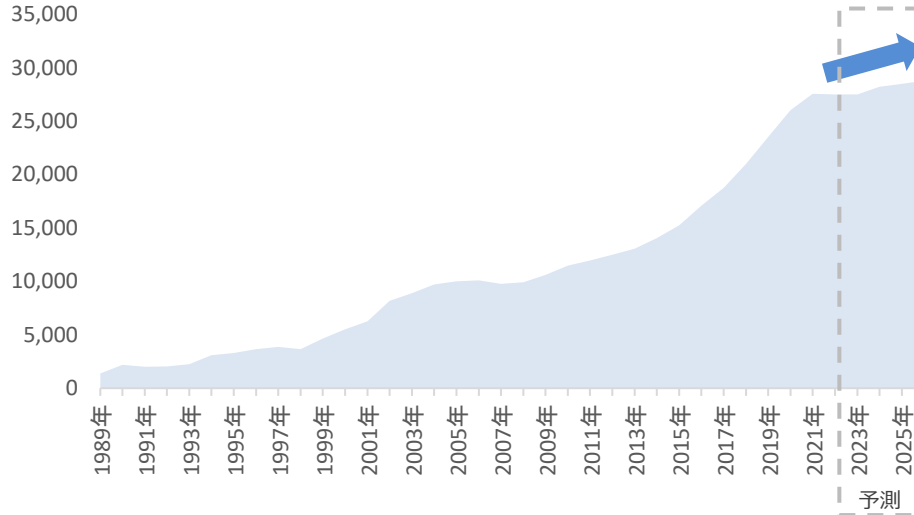


🎯 需要動向および当社の状況について（RTD）

★日本国内 RTD市場推移

当社推計：250ml×24本換算（万箱）

RTD市場は中長期での成長が見込まれる



★サッポロビール 製造強化

従来：静岡工場の自社製造設備＋外部製造機能にて商品供給

2023年10月頃～

仙台ビール工場をRTD工場として再編。自社生産能力は約2倍となり、
①コスト削減、②新たな開発商品への対応力強化、③需給の柔軟性向上
を実現させる。

自社製造比率

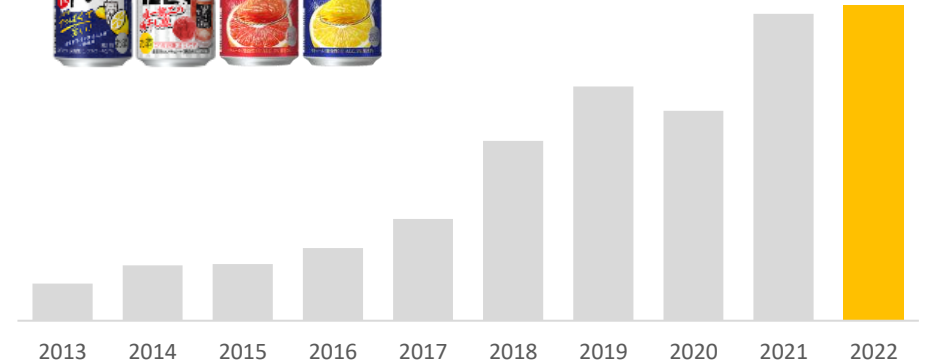
73% (2022年) → 88% (2026年目標)



★サッポロビール RTD（缶）販売数量推移

着実に成長を続け、2022年は前年比103%（過去10年で8.5倍の成長）

今後の更なる成長を目指し、製造・開発面でも強化を図る。



★サッポロビール 開発強化

AIシステム「N-Wing★」

- ・RTD商品開発AIシステムを本格実装。
- ・2023年夏以降にRTD基軸ブランドで新商品の開発を目指す。
- ・商品開発にかかる総時間が約50%削減される効果が期待される。
- ・AIアルゴリズムにより人間では思い浮かばないような配合の創出や、知見の伝承も可能となる。

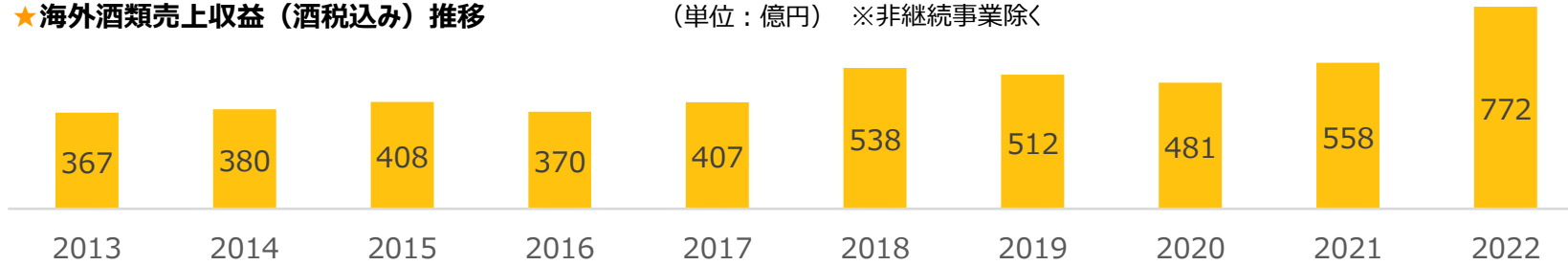
海外酒類事業

1964年のアメリカ合衆国向けのビールの輸出からスタートし、今ではアメリカ、カナダ、ベトナムを中心に約45か国で展開しております。売上収益は10年間で約2倍に拡大し、当社グループの成長ドライバーに位置付けられています。



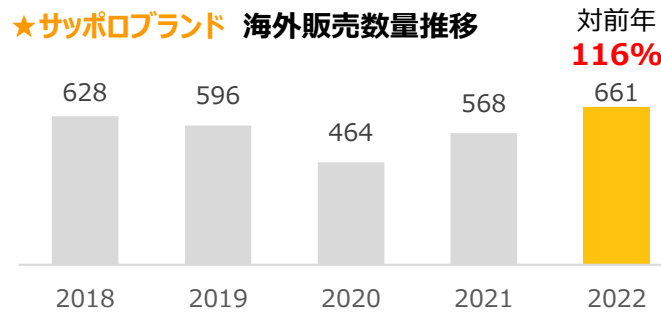
★海外酒類売上収益（酒税込み）推移

（単位：億円） ※非継続事業除く

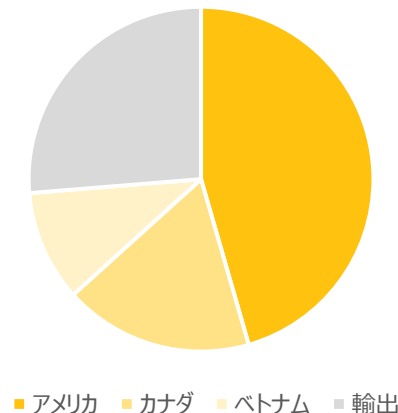


★海外酒類販売数量の状況

★サッポロブランド 海外販売数量推移



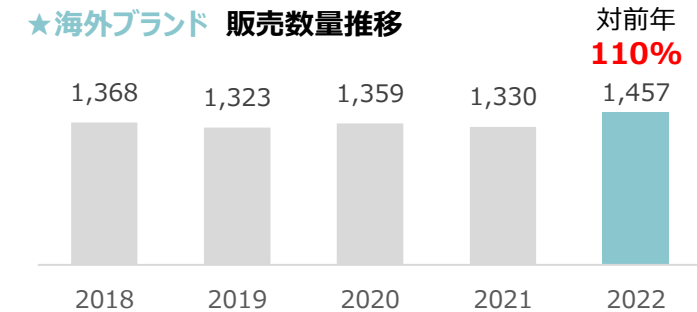
★サッポロブランド 海外販売エリア構成比



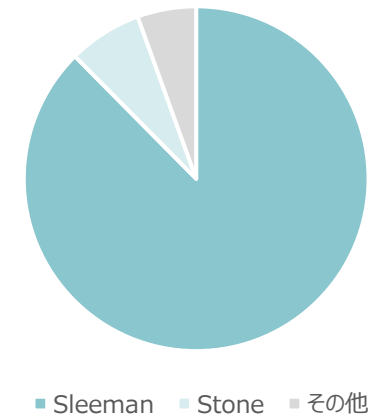
海外酒類 販売数量ブランド構成比



★海外ブランド 販売数量推移



★海外ブランド ブランド構成比



海外酒類事業



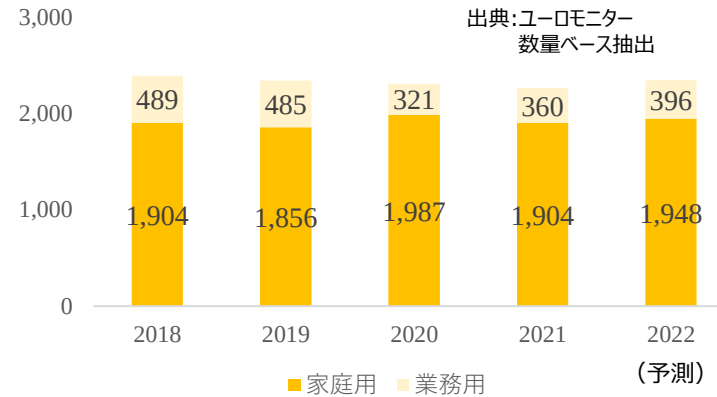
カナダ第3位ビールメーカー

2006年に、当グループがSLEEMAN BREWERIES LTD.を連結子会社化しました。スリーマンは、カナダにおいて、第3位ビールメーカーであり、プレミアムのカテゴリで好評を博しています。子会社になって以来、2006年から売上金額は約2.5倍となりました。

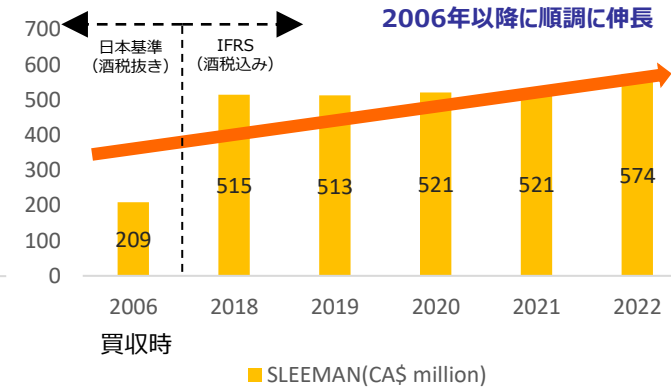
★基本情報

資本金	299 million CA\$
所在地	カナダ オンタリオ州ゲルフ
創業	1834年
買収金額	293.6mnCA\$ (2006年) 日本円換算 約303億円 (1CA\$ = 103.27円)
生産拠点	4工場 (ゲルフ、バーノン、シャンブリー、カルガリー)
生産能力	20万KL (ゲルフ12万KL・バーノン6万KL ・シャンブリー2万KL・カルガリー0.3万KL)
事業内容	ビールの製造、輸入、販売

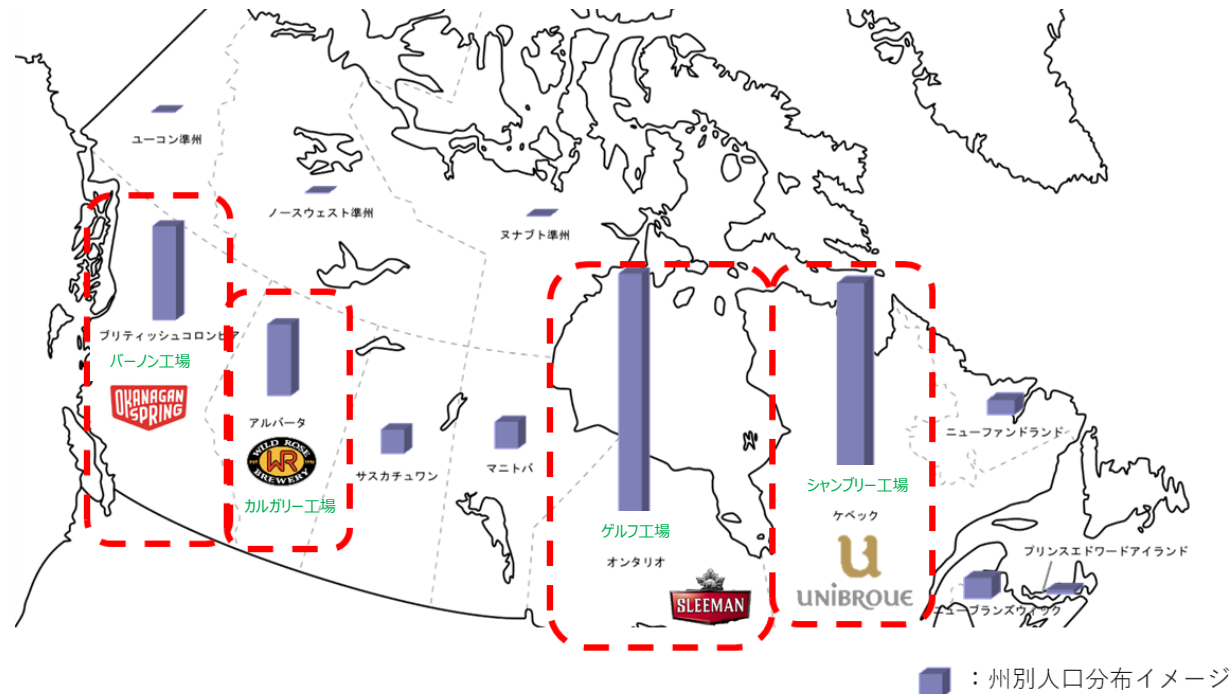
★カナダ国内 市場規模 単位：千KL



★スリーマン 現地通貨建て売上金額推移 (連結消去前)



★カナダ国内エリア展開



海外酒類事業

カナダ

SAPPORO U.S.A.,INC.



2022年SPB*が過去最高売上を達成

*SPB: SAPPORO PREMIUM BEER

1964年から、サッポロビールが米国向けにビールの輸出を開始しました。その後、1984年にSAPPORO U.S.A.,INC.を設立。日本から輸入したSapporo Draft Beerを販売しながら、販路を拡大し、さらなる発展の基盤を築きました。

★基本情報

現地法人 SAPPORO U.S.A.,INC.
資本金 7.2 million\$
市場参入 1984年7月設立
事業内容 ビールの輸入・販売

STONE BREWING CO., LLC



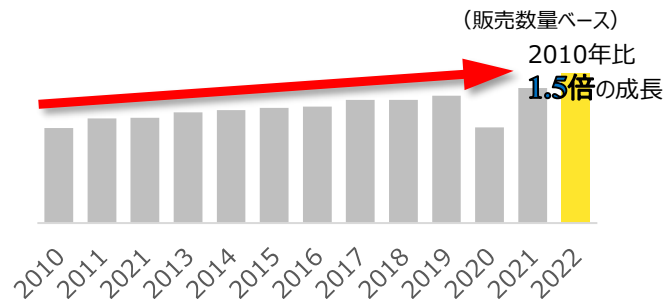
2022年8月にサッポロUSA社が全持分を取得

2022年8月、カリフォルニア州で創業し、米国におけるIPA市場のパイオニア的存在であるStone Brewing Co.,LLCの全持分を取得しました。同社が東西に保有する2工場で、伸長するサッポロブランドを製造し、米国での成長を加速させます。

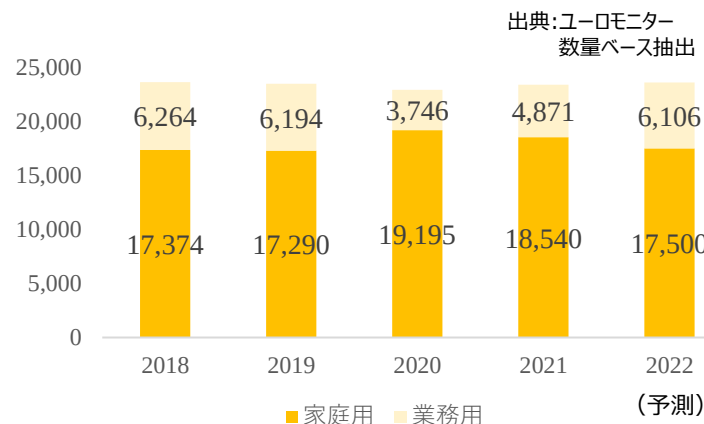
★基本情報

現地法人 Stone Brewing Co.,LLC
取得金額 25,053百万円
設立年 2016年（創業は1996年）
生産拠点 Escondido CA, Richmond VA
事業内容： ビール製造・販売

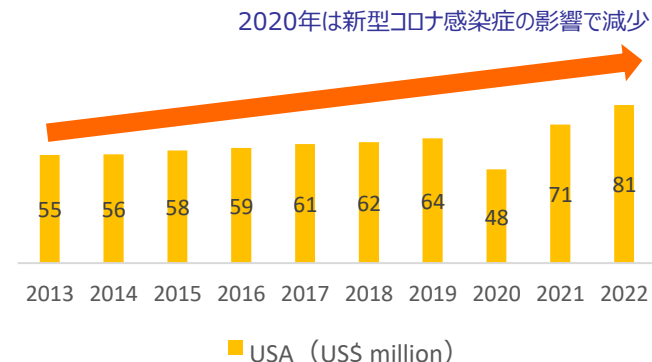
アメリカでのサッポロブランドの拡大状況



★米国国内 ビールの市場規模 単位：千KL



★サッポロU.S.A. 現地通貨建て売上金額推移（連結消去前） ※サッポロブランドのみ

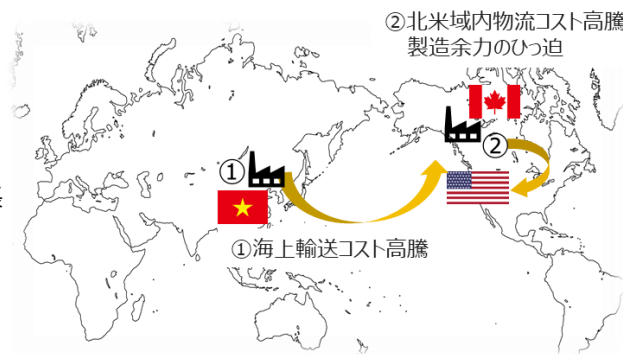


成長ドライバーとなる米国において、Stone社とのシナジー早期創出、**SAPPORO PREMIUM BEER (SPB)** を中心とした更なる成長を目指す。

強化・成長

- ・SPBは37年連続アジアビールNo.1で2022年に過去最高売上を達成し、好調を継続している。
- ・現状はカナダ・ベトナムから輸入しているが、
今後はStone社が東西に保有する工場を活用し、**生産・物流効率の改善を図る。**

現状：カナダ・ベトナムで製造



今後：Stone社の製造拠点を活用
※北米向けSPB商品のみ





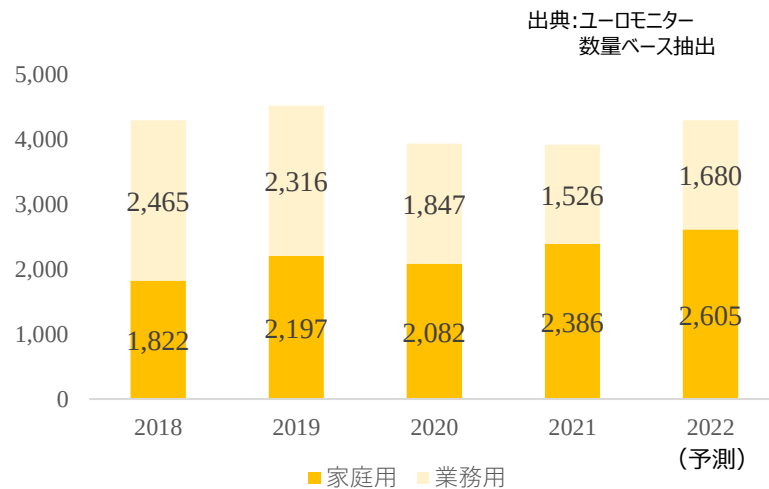
日本のビールメーカーとして初めて、ベトナムにビール工場を建設し市場参入を果たしました。
東南アジアの戦略では、ベトナムを「サッポロ プレミアム」販売拡大のための橋頭堡と位置付けており、
地の利を最大限に活かしながらASEAN 10か国のうち7か国へ展開しています。

★基本情報

現地法人	Sapporo Vietnam LTD.
資本金	1,912,795百万ベトナムドン(≒84mn\$)
市場参入	2010年設立、2011年ロンアン工場竣工
生産能力	6万KL
事業内容	ビールの製造・販売

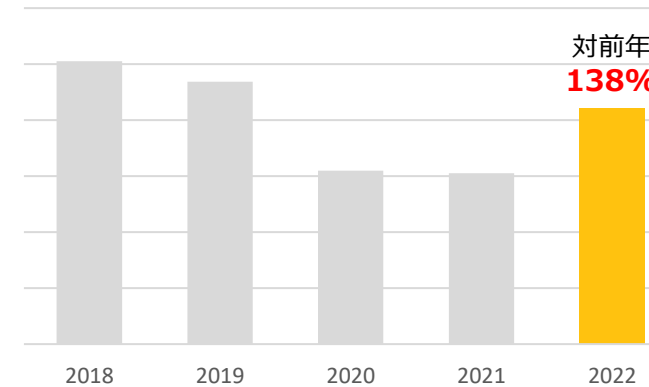


★ベトナム国内 ビールの市場規模 単位：千KL



★サッポロベトナム

ベトナム国内 売上数量 前期比の推移



(株) サッポロライオン

1899 (明治32) 年、東京銀座にわが国初のビヤホールを開店して以来、外食産業のパイオニアとして各種飲食店を経営。おいしい生ビールの提供とともに、「安全・安心、本物志向」をテーマにしたメニュー開発を推進しています。

★ビヤホール・居酒屋業態

事業会社 株式会社サッポロライオン
資本金 50百万円
市場参入 1899年8月4日
日本初のビヤホール
「恵比寿ビール BEER HALL」
東京・銀座に誕生
(サッポロライオン社の創業)
1949年9月
日本共栄株式会社設立
(サッポロライオン社の創立)
事業内容 ビヤホール、レストランの運営
ビヤホール「銀座ライオン」、
ビヤバー「YEBISU BAR」を中心に
小型ビヤホール「銀座ライオンLEO」、
和食業態「かこいや」など複数の業態・
ブランドにて店舗展開

外食事業

日本

日本外食産業市場概要

★日本国内 外食産業市場 2021年

外食産業市場規模：16兆9,494億円
うち、居酒屋・ビヤホール市場規模：約4,483億円

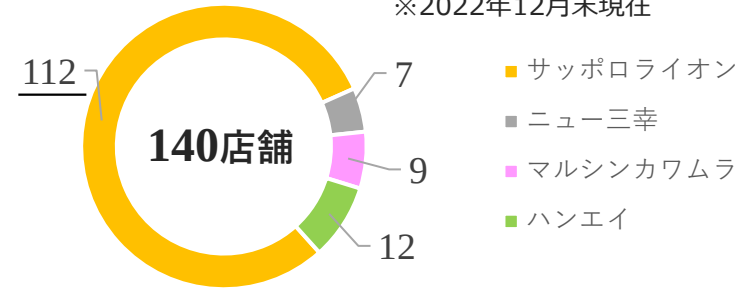
外食産業市場伸び率：▲6.9%
うち、居酒屋・ビヤホール市場伸び率：▲30.9%

外食産業市場データの出典：日本フードサービス協会

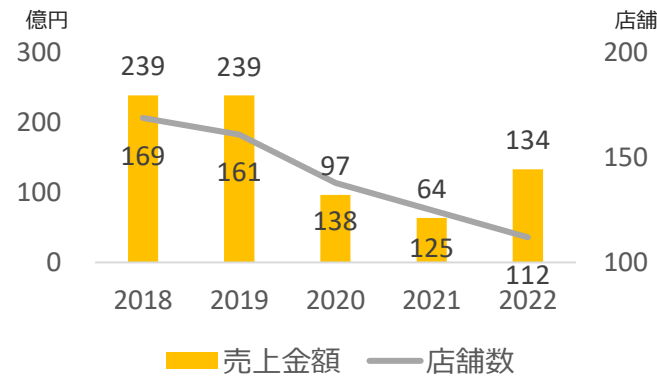
*日本フードサービス協会会員への調査結果に基づくデータの為、上記の市場規模推計結果とは一致しません。

★サッポログループ 外食事業 店舗数構成比

※2022年12月末現在

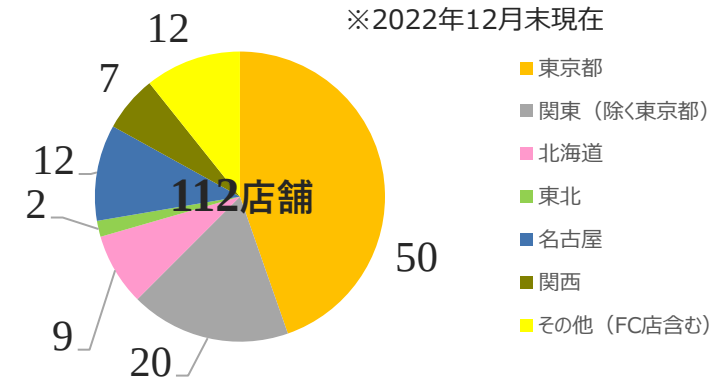


★サッポロライオン単体 国内店舗数と売上金額の推移



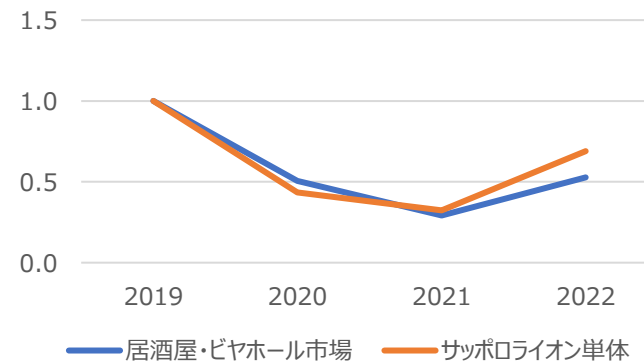
★サッポロライオン単体 店舗数地域別構成比

※2022年12月末現在



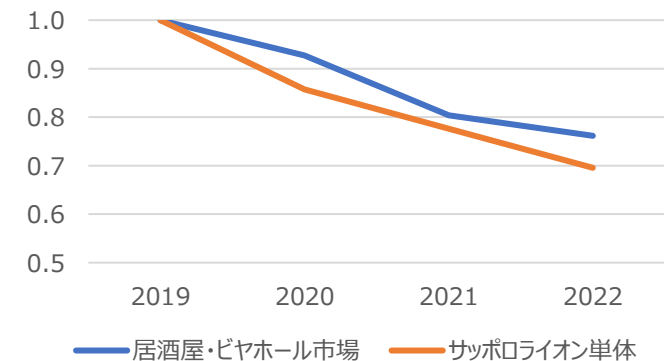
★居酒屋・ビヤホール市場、サッポロライオン単体 売上金額_2019年比

※2019年を1とした場合の増減



★居酒屋・ビヤホール市場、サッポロライオン単体 店舗数_2019年比

※2019年を1とした場合の増減



投資効率の高い店舗の出店と不採算店舗の閉鎖 ブランド発信拠点としての国内酒類事業との連携強化

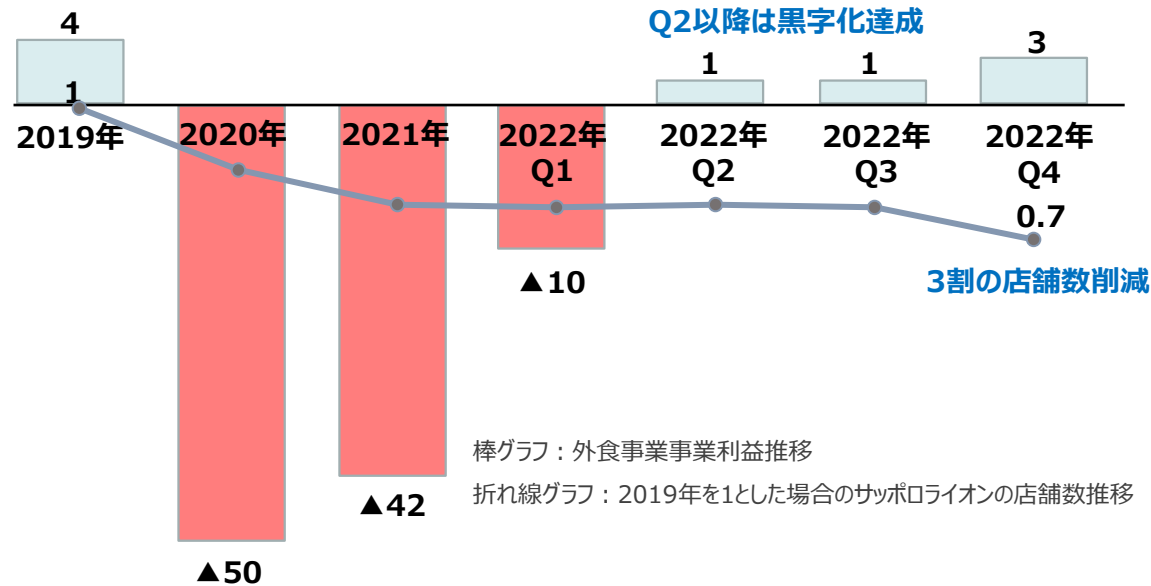
構造改革

新型コロナウイルス感染拡大に伴う外食需要減少の影響を受け、構造改革を実施。（不採算店舗の閉鎖、投資効率の高い店舗の出店等）
今後、外食需要は不安定な状況が続くことが想定されるものの、緩やかな回復基調が続く見通し。
強固な経営体制を構築し、ブランド発信拠点としての国内酒類事業との連携強化を図る。

▶ 構造改革の状況について

2020年から進めた構造改革により、赤字幅は大幅に縮小

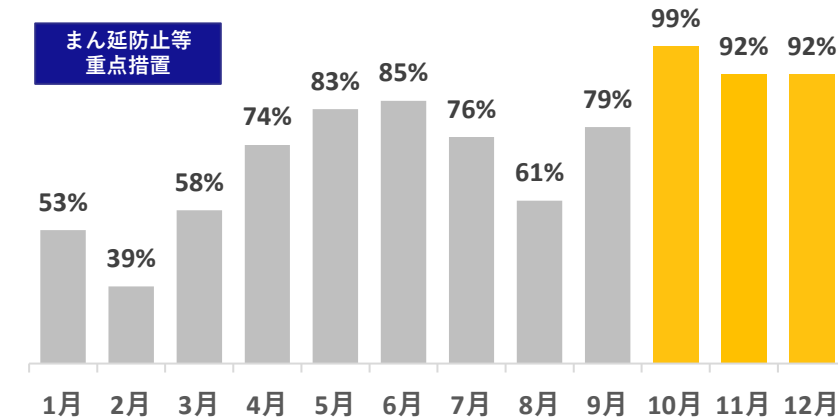
★外食事業事業利益・店舗数推移



▶ コロナからの回復状況について

既存店売上高はコロナ前比較で9割程度まで回復（22年Q4実績）

★サッポロライオン既存店2022年売上金額（2019年比）



外食事業
日本

★ビヤホールライオン 銀座七丁目店



1934年開店、現存する日本最古のビヤホール。

この1階のビヤホールは開業以来、変わらぬ佇まいのまま、現在に至ります。

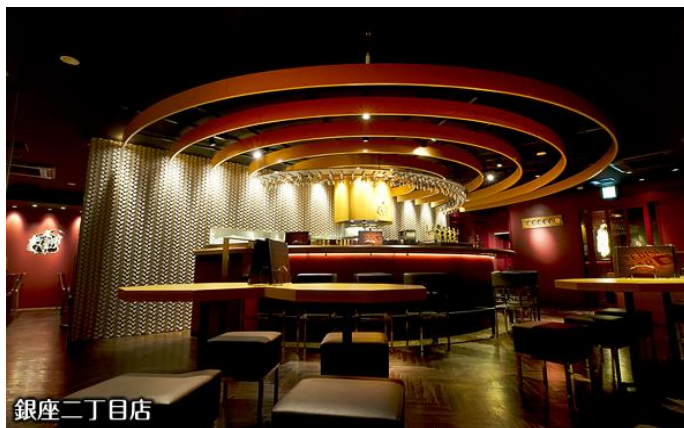
当ビヤホールがある「銀座ライオンビル」は、2022年2月17日付で、国の登録有形文化財（建造物）として登録されました。

店舗内のモザイク壁画（タテ2.75m、ヨコ5.75m）

約250色のズマルトを使用したガラスモザイク壁画。

開店から80年以上経た現在も色褪せることなく店舗内を彩っています。ビヤホールを設計した菅原栄蔵によるデザインで、制作はモザイクガラス作家の大塚喜蔵らによるもの。

★エビスバー



銀座二丁目店

＜エビスバー＞

“ALL FOR YEBISU－エビスの全てが、ここにある。”がコンセプトのエビスビールの魅力を味わっていただくためのビヤバーです。

★ニュー三幸 小樽本店



＜ニュー三幸＞

1954年北海道小樽で創業

ビヤホール業態 中心

北海道小樽を中心に7店舗展開

2023年1月1日サッポロライオン北海道事業部と、株式会社ニュー三幸・株式会社マルシカワムラを統合し、株式会社北海道サッポロライオンを創立

★くし路 KITTE丸の内店



＜マルシカワムラ＞

1995年北海道札幌で創業

2016年6月より新規連結

北海道札幌を中心に「くし路」「炙屋」など9店舗展開

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、サッポログループの食品・飲料事業を担い、食品や飲料に関わるビジネスを国内外で広く展開しています。国内ではレモンを中心に、飲料、スープ、プランツミルクなど、素材を活かしたユニークな商品を開発し、事業を展開しております。

★基本情報

資本金 54億32百万円
所在地 愛知県 名古屋市
市場参入 1909年6月 日本のビール会社として初めて清涼飲料水事業に進出
ビールを製造する工程で発生する炭酸ガスを利用して、
シトロン[®]の製造販売を開始
1957年1月 米国・カナダドライ社と合併にて、国際飲料株式会社を設立
＜サッポロ飲料(株)の創業＞
1957年2月 レモン飲料の製造販売を目的としてニッカレモン株式会社を設立
＜(株)ポッカコーポレーションの創業＞
2009年9月 (株)ポッカコーポレーション株式 21.41%取得 *持分法適用会社化
2011年3月 (株)ポッカコーポレーション株式 86.76%取得 *連結子会社化
2011年12月末時点 (株)ポッカコーポレーション株式 98.59%取得
*取得原価 34,803百万円
2012年3月 食品・飲料事業の統合会社としてポッカサッポロフード&ビバレッジ社設立
2012年12月 (株)ポッカコーポレーション株式 持分100%化完了
2013年1月 ポッカサッポロフード&ビバレッジによる吸収合併実施
(ポッカコーポレーションとサッポロ飲料が消滅)
生産拠点 食品・飲料工場(名古屋、群馬)、食品工場(磐田、仙台)、飲料工場(沖縄)
事業内容 飲料水及び食品事業、外食事業、その他

構造改革の実施による収益基盤の再構築 レモン事業へのリソース集中投下

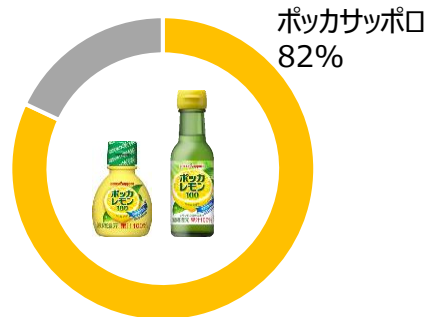
構造改革

ノンコア事業からの撤退や生産拠点の再編など、2024年度までに抜本的な構造改革を実行し、国内レモン市場において圧倒的なシェアを持つ、主力のレモン事業に資源を集中させ、収益の改善を図る。

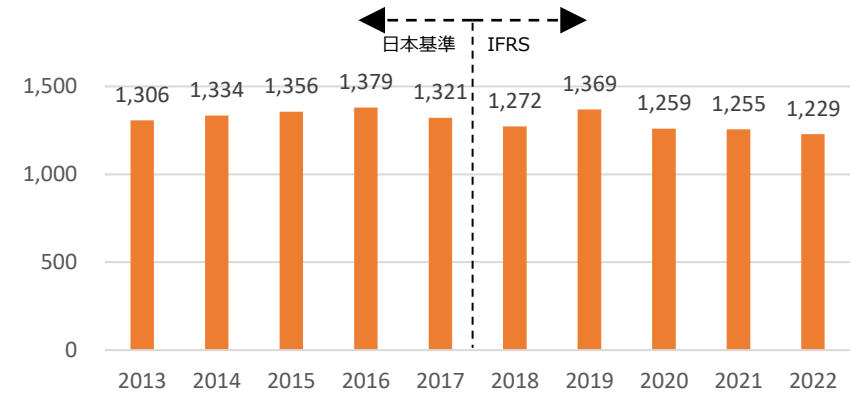
★レモン果汁調味料 2022年

出典:インテージSRI+
レモン果汁調味料市場 2021-2022年
推計販売金額・金額シェア

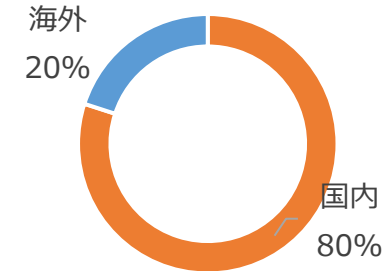
当社販売金額: 131億円
前期比: 98.3% **シェア: 82.0%**



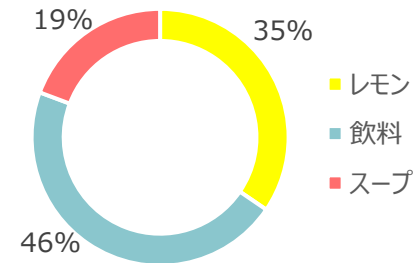
★食品・飲料事業売上収益の推移 単位: 億円



★ポッカサッポロフード&ビバレッジ 食品・飲料事業売上収益の構成比



★ポッカサッポロフード&ビバレッジ 主要3カテゴリ売上金額構成比 (国内)



★レモン食品+レモン飲料売上金額推移

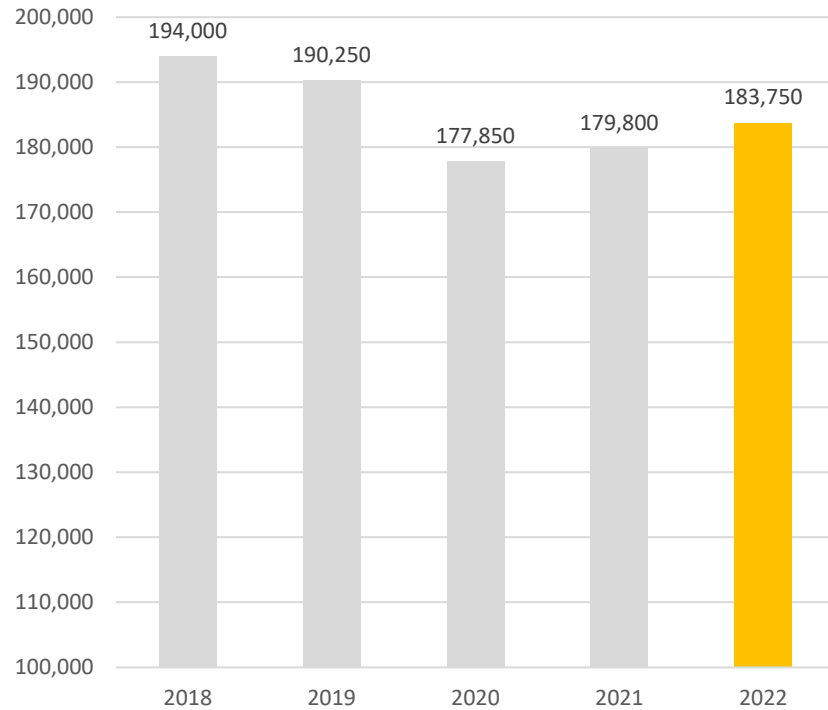


飲料事業概要

★日本国内 飲料市場の規模 単位:万ケース 2022年

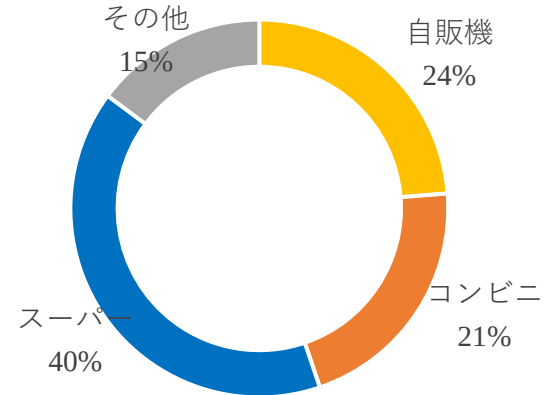
出典:飲料総研『飲料ビジネス 3月号』 数量ベースで抽出

183,750万ケース（前期比：102%）

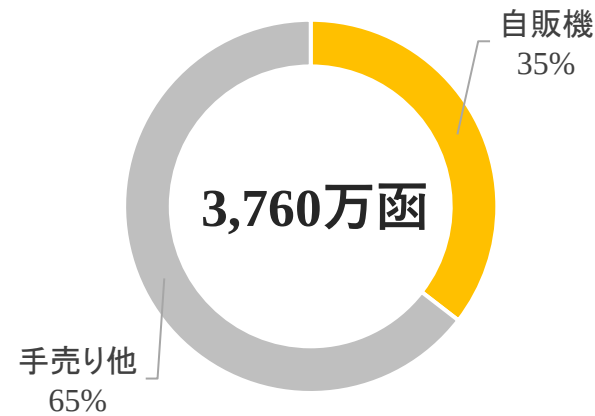


★日本国内 飲料市場チャネル別構成比 2022年

出典:飲料総研『飲料ビジネス 3月号』 数量ベースで抽出

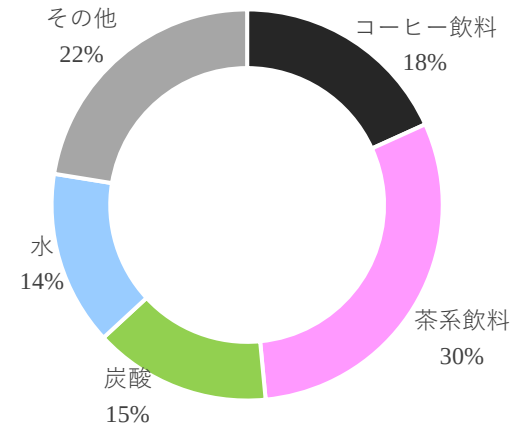


★国内：ポッカサッポロフード&ビバレッジ 国内飲料チャネル別販売数量 構成比

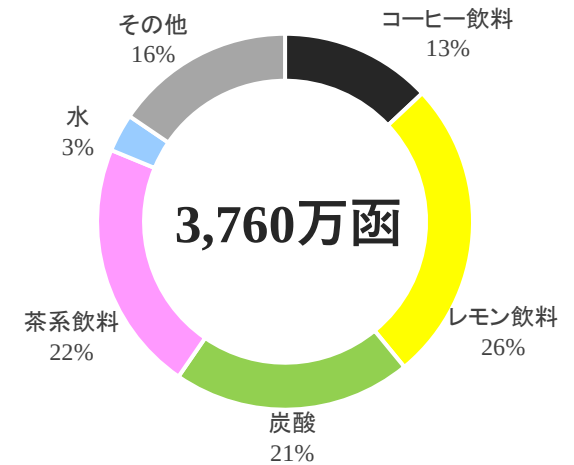


★日本国内 飲料市場カテゴリ別構成比 2022年

出典:飲料総研『飲料ビジネス 3月号』 数量ベースで抽出



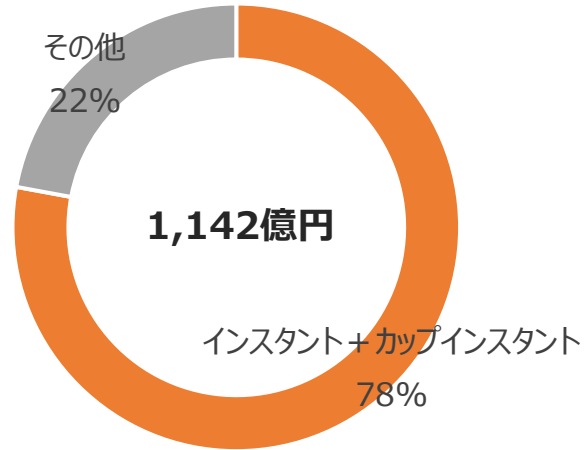
★国内：ポッカサッポロフード&ビバレッジ 国内飲料ジャンル別販売数量 構成比



スープ事業概要

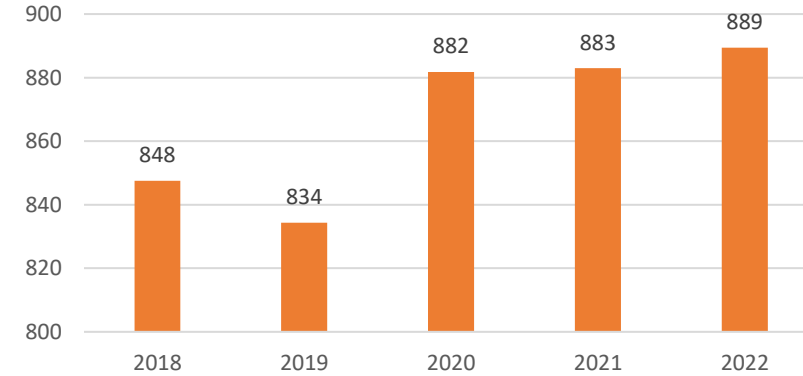
★日本国内 スープ市場カテゴリ別構成比

出典: インテージSRI+ スープ市場 2022年 販売金額



★日本国内 インスタント+カップインスタントスープ市場（億円）

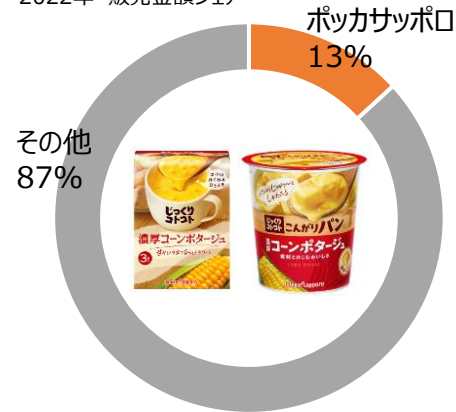
出典: インテージSRI+ インスタント、カップインスタントスープ市場
2018-2022年 販売金額



★ポッカサッポロフード&ビバレッジ

インスタント+カップインスタントのシェア 2022年

出典: インテージSRI+ インスタント+カップインスタントスープ市場
2022年 販売金額シェア



★ポッカサッポロフード&ビバレッジ

インスタントスープ 缶ドリンクのシェア 2022年

出典: インテージSRI+ インスタントスープ缶ドリンク市場
2022年 販売金額シェア



★ポッカサッポロフード&ビバレッジの状況

出典: インテージSRI+ スープ市場 2022年1-12月
推計販売金額・金額シェア

当社販売金額: 116億円 (前期比99.7%)

★ポッカサッポロフード&ビバレッジの状況

出典: インテージSRI+ スープ市場 2022年1-12月
推計販売金額・金額シェア

当社販売金額: 12億円 (前期比92.8%)



海外飲料事業

シンガポール マレーシア

シンガポール（飲料） POKKA PTE. LTD.



1977年、日本の飲料メーカーに先駆けて、海外生産拠点ポッカコーポレーション・シンガポールを設立。シンガポール国内ではジャスミングリーンティーを中心に、茶系飲料で圧倒的なシェアを誇り、果汁飲料、コーヒー飲料でもPOKKAブランドの存在感は増えています。

また、シンガポールから東南アジア、中東など世界60ヶ国以上にPOKKAブランドの飲料を輸出しており、更なる成長を目指しています。

★基本情報

資本金 27mn SG\$
市場参入 1977年1月設立
製造能力 約800万CS/年
事業内容 清涼飲料水の製造、販売

マレーシア（飲料） POKKA (MALAYSIA) Sdn. Bhd.



★基本情報

現地法人 POKKA (MALAYSIA) Sdn. Bhd.
マレーシア工場総工費 34mn SG\$ （日本円換算≒約27億円）
市場参入 2014年8月設立
製造能力 約500万CS/年
事業内容 清涼飲料水の製造、販売



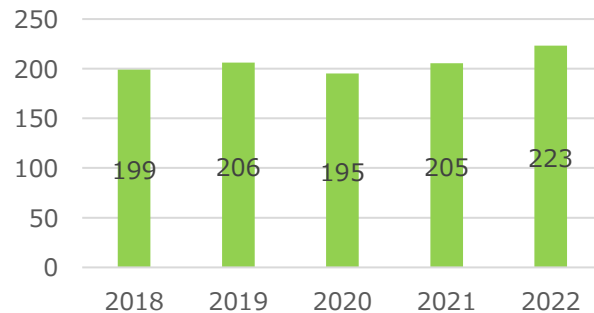
シンガポールを起点にマレーシア、中東など成長余地のある国での売上拡大

強化・成長

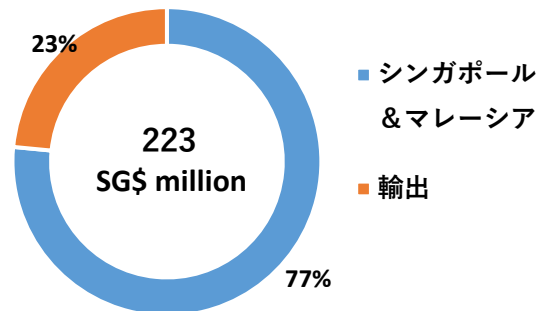
シンガポール市場で茶系飲料No.1のシェア、ブランド力や販売網に強みを有する。

拡大余地のあるマレーシアや中東、アジア諸国で、シンガポールのノウハウを活かし、販売強化を進める。

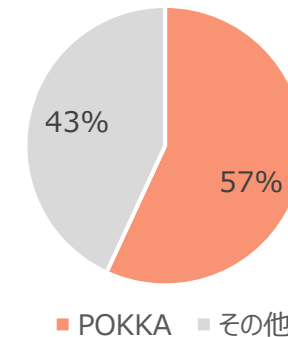
★売上金額の推移 単位：SG\$ million



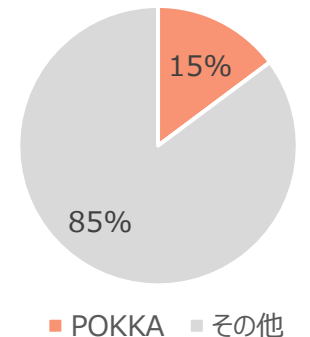
★ポッカ 売上金額構成比（2022年実績）



★シンガポール 茶系シェア



★マレーシア 茶系シェア



Nielsen Market Track "RTD TEA market share"

※マーケットシェアは、2022年12月までの260週間のRTDティーカテゴリのMarketTrackServiceを通じてNielsenIQによって報告されたデータに基づく当社推計

Copyright © 2023, NielsenIQ

サッポロ不動産開発株式会社

「恵比寿ガーデンプレイス」と「サッポロファクトリー」「GINZA PLACE」を中心とした都市開発事業および不動産事業を行っています。1988年に設立されて以来、グループとゆかりの深い恵比寿・銀座・札幌を中心に事業を展開してきました。今後は魅力的な「まちづくり」に取り組むとともに、これまで培ってきたノウハウを最大限活かし、長期的な時間軸で収益構造多様化にも取り組んでまいります。

★基本情報

事業会社	サッポロ不動産開発株式会社
資本金	20億80百万円
市場参入	1988年6月
事業内容	不動産の賃貸管理、不動産開発、ホテル運営等

★当社主要賃貸不動産物件別年間平均稼働率

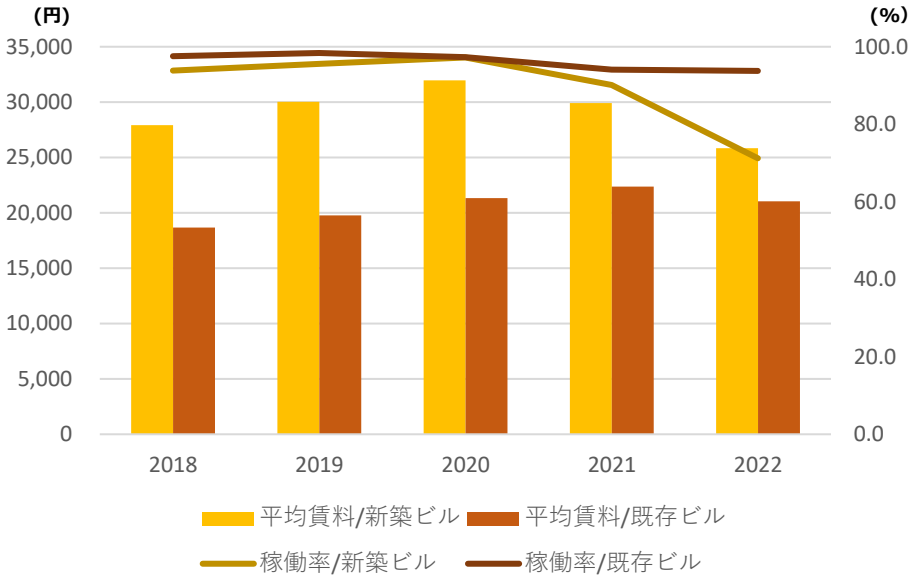
	2018	2019	2020	2021	2022
恵比寿ガーデンプレイス（%）	100	99	98	92	83
GINZA PLACE（旧銀座ビル）（%）	100	99	99	94	97
ストラータ銀座（%）	100	100	100	100	100

★当社賃貸等不動産期末時価推移 単位 百万円

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
	期末	期末	期末	期末	期末
貸借対照表計上額	215,522	219,589	218,574	203,224	209,628
当期末時価	385,992	402,111	408,141	382,928	385,682

不動産の市場状況

★東京ビジネス地区オフィス年間平均稼働率・賃料推移



出典：三鬼商事

	2018	2019	2020	2021	2022
平均賃料/平均(円/坪)	20,000	21,585	22,613	21,150	20,261
平均賃料/新築ビル	27,928	30,039	31,985	29,909	25,841
平均賃料/既存ビル	19,762	21,341	22,381	21,031	20,168
稼働率/平均(%)	97.5	98.3	97.4	94.1	93.6
稼働率/新築ビル	93.9	95.6	97.3	90.2	71.2
稼働率/既存ビル	97.6	98.4	97.4	94.1	93.8

コア物件の価値向上とまちづくり 資産回転型ビジネスモデル構築（収益構造多様化・資産効率向上）

強化・成長

主力である賃貸事業のバリューアップを継続するとともに、中長期的な視点で賃貸事業主体の収益構造を転換する。

- ・恵比寿ガーデンプレイスは、再生可能エネルギー導入、空調更新などの価値向上とまちづくり推進による競争力強化。
- ・札幌エリアは、北海道新幹線の札幌延伸を見据え、ブランドの起点であるサッポロガーデンパークを再開発し、集客、ブランド発信力強化。

エクイティ投資、VA流動化事業を推進し、「資産回転型ビジネスモデル」の構築を目指す ※資産比率30%を上限に投資

▶ 当社コア物件の歴史（地域とのつながり）について

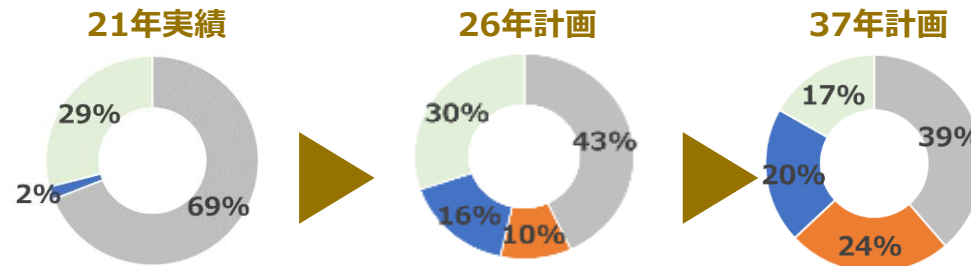


▶ 「資産回転型ビジネスモデル」の構築について

エクイティ投資、VA流動化事業の利益構成比を高めることで、賃貸事業主体の収益構造を転換する。

★利益構成比の変化

- YGP
- VA流動化
- エクイティ
- その他物件



不動産事業

日本

★サッポログループの主な保有不動産

＜大型複合商業施設＞

恵比寿ガーデンプレイス
(サッポロビール恵比寿工場跡地を再開発)



所在地 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番
東京都目黒区三田1丁目4番、13番
敷地面積 約83,000㎡ (25,200坪)
うち当社所有部分 56,943㎡
建築面積 約32,000㎡ (9,700坪)
延床面積 約478,000㎡ (144,600坪)
うち当社所有部分 298,007㎡
オフィス棟規模 地下5階 地上40階建
開業 1994年10月

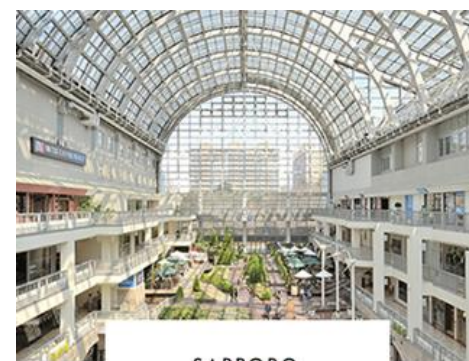
※EBITDA82億円
(恵比寿ガーデンプレイス関連)

サッポロガーデンパーク
(サッポロビール札幌工場 (第2製造所)
跡地を再開発)



所在地 北海道札幌市東区北7条東9丁目
商業施設面積 約123,121㎡
延床面積 約119,731㎡
開業 2005年

サッポロファクトリー
(サッポロビール札幌工場 (第1製造所)
跡地を再開発)



所在地 北海道札幌市中央区北2条東4丁目
敷地面積 約47,000㎡ (14,300坪)
建築面積 約32,400㎡ (9,800坪)
延床面積 約160,000㎡ (48,400坪)
開業 1993年4月

※EBITDA13億円
(北海道関連)

GINZA PLACE
(銀座ライオン発祥の地を再開発)



所在地 東京都中央区銀座5-8-1
敷地面積 約645㎡
延床面積 約7,350㎡
規模 地下2階、地上11階建
開業 2016年9月

※EBITDA28億円
(銀座プレイスを含むその他物件/事業)



STRATA GINZA

所在地 東京都中央区銀座
7-10-1
敷地面積 1,117㎡
延床面積 11,411㎡
規模 地下1階
地上13階建
竣工 2006年9月
用途 ホテル、物販店舗、飲食店舗、
駐車場
*区分所有 建物所有割合89.72%



Sreed EBISU

所在地 東京都渋谷区恵比寿
1-20-4
敷地面積 237㎡
延床面積 1,253㎡
規模 地下1階
地上8階建
竣工 2019年3月
用途 オフィス、店舗
*取得日 2019年4月

3 サッポログループ財務データ

- 財務データ（損益動向、財務状態、セグメント情報他） 31
- 会社情報 37



損益計算書データ

JGAAP					IFRS					
	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12		2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12
売上高 (酒税込み)(百万円)	518,740	533,748	541,847	551,548	売上収益 (百万円)	493,908	491,896	434,723	437,159	478,422
売上高 (酒税抜き)(百万円)	401,813	418,319	424,059	433,260	売上収益 (酒税抜き)(百万円)	370,796	371,100	328,583	331,191	364,240
売上原価 (百万円)	336,388	352,808	352,420	358,572	売上原価 (百万円)	335,631	336,682	302,593	303,380	339,180
販管費及び一般管理費 (百万円)	167,623	166,990	169,159	175,943	販管費及び一般管理費 (百万円)	143,118	143,490	127,869	125,637	129,931
営業利益 (百万円)	14,728	13,950	20,267	17,032	事業利益 (百万円)	15,159	11,723	4,261	8,142	9,312
経常利益 (百万円)	14,565	13,211	19,202	16,410	営業利益 (百万円)	11,588	12,208	▲15,938	22,029	10,106
E B I T D A (百万円)	42,974	42,327	46,529	44,558	E B I T D A * (百万円)	39,751	35,971	27,351	28,639	29,879
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	340	6,108	9,469	10,977	親会社の所有者に帰属する 当期純利益(百万円)	8,521	4,356	▲16,071	12,331	5,450
海外売上高比率 (酒税抜き)(%)	19.2	22.6	20.5	21.2	海外売上収益比率 (酒税込み)(%)	15.0	14.5	15.1	17.0	21.4
売上高総利益率 (酒税抜き)(%)	45.4	43.3	44.7	44.5	売上収益総利益率 (%)	32.0	31.6	30.4	30.6	29.1
売上高販管費率 (酒税抜き)(%)	41.7	39.9	39.9	40.6	売上収益販管費率 (%)	29.0	29.2	29.4	28.7	27.2
売上高営業利益率 (酒税抜き)(%)	3.7	3.3	4.8	3.9	売上収益事業利益率 (%)	3.1	2.4	1.0	1.9	1.9



貸借対照表データ

JGAAP					IFRS					
	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12		2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12
総資産 (百万円)	625,439	620,388	626,351	630,630	資産合計 (百万円)	639,692	638,722	616,349	594,551	639,118
純資産 (百万円)	160,004	163,822	166,380	177,662	資本合計 (百万円)	164,735	174,524	149,551	163,327	167,201
流動資産 (百万円)	156,372	156,364	164,183	168,852	流動資産 (百万円)	153,544	155,765	160,829	167,806	179,431
固定資産 (百万円)	469,066	464,023	462,168	461,778	非流動資産 (百万円)	486,148	482,957	455,520	426,745	459,687
流動負債 (百万円)	211,771	233,643	212,123	220,173	流動負債 (百万円)	214,591	210,472	216,243	210,535	219,515
固定負債 (百万円)	253,662	222,921	247,847	232,794	非流動負債 (百万円)	260,367	253,725	250,555	220,688	252,402
金融負債 (百万円)	247,556	234,741	238,143	233,588	ネット金融負債残高 (百万円)	218,358	212,126	221,534	180,730	226,513
自己資本比率 (%)	25.0	25.5	25.7	27.5	親会社所有者帰属持分比率 (%)	25.2	27.3	24.3	27.3	0.3
E B I T D A 有利子負債倍率 (倍)	5.5	5.3	4.9	5.0	E B I T D A 有利子負債倍率 (倍)	5.5	5.9	8.1	6.3	7.6
D/Eレシオ (倍)	1.5	1.4	1.4	1.3	D/Eレシオ (倍)	1.4	1.2	1.5	1.1	1.4

セグメント別 売上高&売上収益

JGAAP					IFRS					
	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12		2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12
酒類事業売上高 (酒税込み)(百万円)	330,704	344,153	344,877	348,529	酒類事業売上収益 (百万円)	330,009	330,178	285,427	289,678	334,644
国内酒類事業売上高 (酒税込み)(百万円)	281,031	273,651	279,476	278,692	国内酒類事業売上収益 (百万円)	252,108	254,656	227,943	228,621	245,387
国際酒類事業売上高 (百万円)	49,672	70,501	65,400	69,837	海外酒類事業売上収益 (百万円)	50,332	48,257	46,203	53,439	73,950
外食事業売上高 (百万円)	27,143	27,004	28,120	29,140	外食事業売上収益 (百万円)	27,569	27,265	11,281	7,617	15,307
食品飲料事業売上高 (百万円)	133,439	135,670	137,918	137,898	食品飲料事業売上収益 (百万円)	133,384	136,876	125,861	125,453	122,914
不動産事業売上高 (百万円)	21,509	20,872	22,900	24,134	不動産事業売上収益 (百万円)	24,483	24,690	23,262	21,863	20,724
その他事業売上高 (百万円)	5,944	6,048	8,031	11,845	その他事業売上収益 (百万円)	6,033	152	172	166	140

※カントリーピュアフーズ社・シルバースプリングスシトラス社（北米飲料事業）：～2017年12月→国際酒類事業に分類
2018年～2019年12月→食品飲料事業に分類（2019/12売却済み）

※2020年度より、「その他事業」に区分していた物流事業を、「酒類事業」に区分へ変更。

※2021年度より、「日本・アジア酒類事業」に区分していたベトナム事業、欧州事業等の海外事業、及び「北米酒類事業」について、「海外酒類事業」に区分を変更。
また、同区分変更に伴い、「日本・アジア酒類事業」を「国内酒類事業」に名称変更。前期比較については、前年数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で比較。
（＝～2019年まで「日本・アジア酒類事業」、「北米酒類事業」、2020年～「国内酒類事業」、「海外酒類事業」）



セグメント別 営業利益&事業利益

JGAAP					IFRS					
	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12		2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12
酒類事業営業利益 (百万円)	10,365	8,789	12,652	10,553	酒類事業 事業利益 (百万円)	8,952	8,520	2,368	5,441	7,730
国内酒類事業営業利益 (百万円)	10,192	8,635	11,745	11,767	国内酒類事業 事業利益 (百万円)	7,166	8,003	6,660	7,916	8,471
国際酒類事業営業利益 (百万円)	172	154	906	▲1,214	海外酒類事業 事業利益 (百万円)	1,473	199	467	1,727	▲261
外食事業営業利益 (百万円)	303	522	663	330	外食事業 事業利益 (百万円)	381	388	▲5,022	▲4,238	▲513
食品飲料事業営業利益 (百万円)	121	434	1,314	564	食品飲料事業 事業利益 (百万円)	1,409	▲470	▲2,621	712	1,767
不動産事業営業利益 (百万円)	7,695	8,281	10,328	11,261	不動産事業 事業利益 (百万円)	11,136	10,737	10,853	8,226	6,459
その他事業営業利益 (百万円)	183	1	95	51	その他・全社 事業利益 (百万円)	▲6,338	▲7,064	▲6,339	▲6,237	▲6,644
酒類事業営業利益率 (酒税抜き)(%)	4.8	3.8	5.6	4.6	酒類事業 事業利益率 (%)	2.7	2.7	0.8	1.9	2.3
国内酒類事業営業利益率 (酒税抜き)(%)	6.2	5.5	7.3	7.3	国内酒類事業 事業利益率 (%)	2.8	3.3	3.1	3.5	3.5
国際酒類事業営業利益率 (%)	0.3	0.2	1.4	▲1.7	海外酒類事業 事業利益率 (%)	2.9	0.4	0.7	3.2	▲0.4
外食事業営業利益率 (%)	1.1	1.9	2.4	1.1	外食事業 事業利益率 (%)	1.4	1.4	▲44.5	▲55.6	▲3.3
食品飲料事業営業利益率 (%)	0.1	0.3	1.0	0.4	食品飲料事業 事業利益率 (%)	1.1	▲0.3	▲2.1	0.6	1.4
不動産事業営業利益率 (%)	35.8	39.7	45.1	46.7	不動産事業 事業利益率 (%)	45.5	43.5	46.7	37.6	31.2
その他事業営業利益率 (%)	3.1	0.0	1.2	0.4	その他事業 事業利益率 (%)	—	—	—	—	—

キャッシュフロー情報

	JGAAP				IFRS				
	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12
営業活動 C F (百万円)	22,284	35,265	32,570	30,004	30,830	36,069	16,466	30,308	7,814
投資活動 C F (百万円)	▲17,229	▲9,755	▲27,586	▲17,822	▲18,727	▲24,930	▲16,000	20,729	▲46,137
財務活動 C F (百万円)	▲7,307	▲24,802	▲4,827	▲10,171	▲14,521	▲5,984	4,138	▲53,080	36,465
フリー C F (百万円)	5,055	25,510	4,984	12,182	12,103	11,140	466	51,037	▲38,323
現金・同等物期末残高(百万円)	9,748	10,399	10,475	12,536	9,989	15,215	19,734	17,368	15,380
設備投資額(百万円)	19,133	20,339	21,809	15,253	23,036	29,912	16,109	21,241	22,326
減価償却費(百万円)	24,481	24,224	22,341	23,571	24,591	24,248	23,089	20,496	20,567
のれん償却額(百万円)	3,764	4,153	3,920	3,954	-	-	-	-	-

1 株当たり情報

	JGAAP				IFRS				
	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12
1株当たり当期純利益/ (IFRS)基本的1株当たり当期利益(円)	4.35	78.40	121.56	140.93	109.40	55.92	▲206.31	158.30	69.96
1株当たり配当金(円)	35	35	37	40	42	42	42	42	42
1株当たり純資産/ (IFRS)1株当たり親会社所有者帰属持分(円)	2,005.85	2,027.20	2,062.86	2,227.02	2,073.54	2,234.65	1,922.80	2,086.96	2,134.98
配当性向(%)	802.6	44.6	30.4	28.4	38.4	75.1	-	26.5	60.0
株価（各年12月末）(円)	2,560	2,660	3,010	3,450	2,293	2,579	1,991	2,183	3,280

※2016年7月1日付で普通株式5株につき1株の割合を持って株式併合を実施しております。
2014年の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、一株あたり情報並びに株価を算出しております。

各種指標

	JGAAP				IFRS				
	2014/12	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12
ROA/ (IFRS)資産合計事業利益率(%)	2.4	2.3	3.2	2.7	2.3	1.8	0.7	1.4	1.5
ROE/ (IFRS)親会社所有者帰属持分当期利益率(%)	0.2	3.9	5.9	6.6	5.1	2.6	▲9.9	7.9	3.3
総資産回転率/ (IFRS)資産合計回転率(回)	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7

オンライングラフURL

グラフ表示はこちらをご覧ください。
<https://www.sapporoholdings.jp/ir/financial/graph/>

サッポロホールディングス株式会社

本社
〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

お問い合わせ先
サッポロホールディングス株式会社 経理部 IR室
Tel. 03-6859-2304 Fax.03-5423-2061

設立
1949（昭和24）年9月1日

創業
1876（明治9）年

代表者
代表取締役社長：尾賀 真城

事業概要
持株会社（グループの経営戦略の策定、管理）

資本金
53,887百万円

発行済株式数
78,794,298株（2022年12月31日現在）

格付情報（2022年12月31日現在）
株式会社日本格付研究所（JCR） A-
株式会社格付投資情報センター（R&I） BBB+

証券コード
2501

株主名簿管理人
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
（フリーダイヤル）0120-288-324

単元株式数 100株

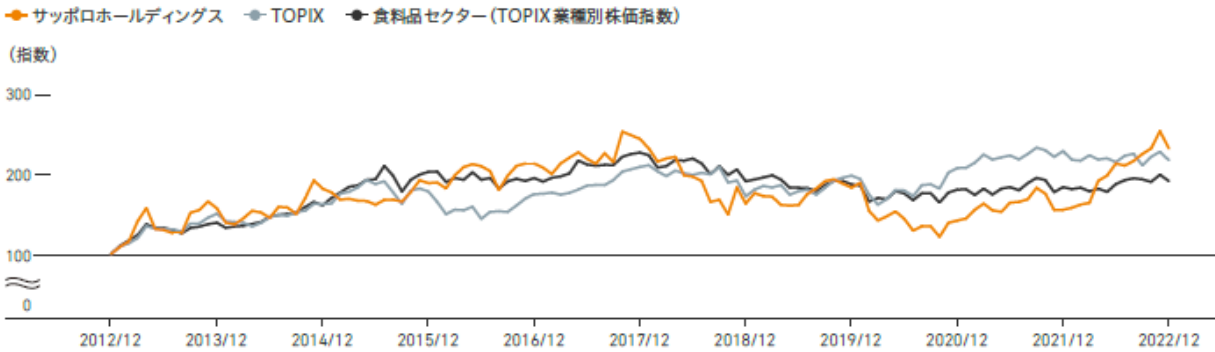
大株主（上位10名及びその状況） 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

2022年12月31日現在

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	11,987	15.36
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2,864	3.67
株式会社日本カストディ銀行 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
日本生命保険相互会社	2,237	2.87
明治安田生命保険相互会社	2,236	2.87
農林中央金庫	1,875	2.4
丸紅株式会社	1,649	2.11
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	1,594	2.04
J P モルガン証券株式会社	1,541	1.98
大成建設株式会社	1,400	1.79

株価・TSR情報

株価推移*1



*1 2012年12月末の終値を100とした場合の株価指数

TSR（株主総利回り）*2

	過去1年	過去3年	過去5年	過去10年	2012/12	2022/12
株価					1,395円	3,280円
PER					20.3倍	46.9倍
PBR					0.8倍	1.5倍

*2 配当を再投資した場合の投資収益率。2022年12月末の終値を終点にして選った保有期間の収益率を記載



潤いを創造し 豊かさに貢献する



本資料は、投資判断の参考となる情報提供のために作成されたものであり、投資勧誘又はそれに類する行為を目的としたものではありません。
また、本資料に記載された業績予測ならびに将来予測は、資料作成時点での弊社の判断であり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。
従って、将来実際に公表される業績等は、本資料に記載されている内容とは大きく異なる結果となる可能性があります。
弊社は、本資料の情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありませんので、ご了承ください。